

社会・環境報告書 2010

ENVIRONMENTAL REPORT

INDEX



ご挨拶	2
会社概要	3
事業内容	4
魅力ある会社づくり	5
CSR運	7
みどり（環境）活動・みどりの委員会	11
環境方針・環境マネジメントシステム	12
行動計画／目標・実績	13
廃棄パソコンの回収・解体	15
環境教育	17
社会貢献	18
環境会計	19
環境保全活動のあゆみ	21
活動スケジュール・第三者コメント	22

産業革命以降、人口の急激な増加や化石燃料の大量消費、伐採による森林面積の減少等により、二酸化炭素等の温室効果ガス排出量が増加しています。その結果、過去100年間に地球の平均気温が約0.3～0.6度と急激に上昇し、世界中で異常気象による自然生態系や生活環境への影響が出ています。これが『地球温暖化』と呼ばれる現象です。

2005年2月に施行された『京都議定書』によって、日本は2012年までに温室効果ガスの排出量を1990年度比で6%削減するという目標を達成しなければならなくなりました。そのためには、依然増加傾向にある温室効果ガスの排出量を減らさなければなりません。なかでも大量の温室効果ガスを排出する企業の取り組みが重要となります。

この報告書に関するご意見・お問い合わせは下記までお願いします。
報告書は弊社のホームページからもお覧になれます。
<http://www.g-hopper.ne.jp>

エコー電子工業株式会社「みどりの委員会」
〒812-0007
福岡県福岡市博多区東比恵3-1-2
TEL. 092-471-0848 FAX. 092-471-8621





当社では96年に経営コンセプトとして『人とみどりとソリューション』を発表し、環境問題を経営課題のひとつととらえ、翌年のリサイクルセンター開設を契機に、環境保全への取り組みを積極的に推進して参りました。他社に先駆けて、99年には念願のISO14001を取得しました。

今ではITプロダクツの提供からアプリケーションの開発、情報・通信機器の設置、工事まで手がけるとともに、その後のメンテナンス、使用済み機器類の引き取り、そして、解体・分別・再利用を行って、『循環型ソリューションプロバイダー』を自負できるまでに守備範囲を広げてきました。特に、当社の環境保全活動の柱であるリサイクルセンターはマニフェスト制度の浸透により、収集された廃棄物のレアメタルの分別に注力し、究極の目標でありますゼロエミッションに向けて鋭意努力しております。

また、06年にはITのリユース部門を分離して、本格的にリユースを専門に行う(株)パクスを設立しました。これは使用済み機器の再利用、つまり、機器の寿命を延ばすことで、環境負荷の低減を行うビジネスにも新たに取り組みました。

一方、地道な活動ですが、お客様に納品するITシステムにペーパーレス化など省エネの仕組みを組み込んだり、社員の日ごとの行動にも環境保全を意識した目標を設定して、報告するなどの運動を推進しています。さらに、九州の土地に適応した照葉樹を育て、個人が排出するCO2を23本/人の木で吸収しようと、自分たちの森作りに取り掛かるつもりです。まだまだ緒についたばかりですが、一人ひとりが地球に優しい行動をおこすことで、企業としての社会的責任の一端を果たしていこうと考えております。

当社では02年に環境報告書の初版を発行し版を重ねて参りましたが、近年、環境活動も包含して企業の社会的責任が注目されるようになりました。今回は当社の環境報告書も「社会・環境報告書」とタイトルを変えております。ITによるお客様のソリューションを本業にしながら、環境活動を含めて、広い意味で直接、間接的に行ってきた企業としての社会的責任の活動の内容やこれからの方向性などをまとめました。本書を通じて、当社の社会的責任活動の一環を紹介できれば幸甚でございます。



代表取締役社長

小林 隆一

～青い地球を守るために～

46億年前の地球は赤い火の惑星でした。その後、冷えた地球に植物が繁殖しました。光合成を盛んに行った植物たちは朽ちて倒れて化石化してゆきました。地中にCO2を閉じ込めて、酸素が地球を覆って、オゾンが太陽から生物を守る仕組みが出来上がったわけです。気が遠くなるような年月をかけて、生命が宿る青い地球が誕生しました。

人間は産業革命と同時に、地中に埋まっていた化石燃料を掘り出し燃焼させ、CO2を空中に放出することで、一瞬の200年の間に、一気に元の赤い地球に戻そうとしています。地球温暖化の始まりです。我々は青い地球を取り戻して、次の世代に引き継がなければなりません。そのためには化石燃料を使わないことはもとより、CO2をふたたび閉じ込める森を再生させることが大切だと考えます。

太古の時代から、家を作るために柱となる真っ直ぐな木樹が好んで植えられていました。戦後、住宅用木材の利用を目的に、杉やヒノキが大量に植樹され、九州の自然林の山々は人工的な杉・ヒノキにとって代わられてしまいました。その昔、九州には1200mを越える高山以外には杉やヒノキなどの針葉樹は植生していませんでした。それまでは、その風土や気候に最も適応した照葉樹の森が延々と続いていたはずですが。今や、売れなくなった杉やヒノキは手入れがされず、放置されてしまっています。無理やり合わない環境に植えられた樹木は人手をかけないと死んでしまいます。水を蓄える機能も衰え、風水害や火事にもろく、CO2吸収力も弱まってゆきます。れからは人手がかからず、自然に生き続ける本来の強い森を作らなければなりません。その気候や風土に一番マッチした樹木を植樹して、森を生き返らせることも我々の努めだと思います。"みどり"という企業コンセプトをさらに押し進めて、本当の生きた森づくりに協力してゆければ幸いです。





当社は九州地区の富士通パートナーとして九州一円と東京を中心に、情報機器の販売とそれに伴うソフトウェアの開発、情報インフラ、通信機器の販売・工事、リサイクルを行うことで、お客様のソリューションをお手伝いしています。

1. 概要

設 立	1963年4月1日（昭和38年）
資 本 金	87,500,000 円
従 業 員 数	190名（2010年4月1日現在）
事 業 内 容	電子・情報通信機器の販売、ソフトウェアおよびコンピュータシステムの開発、 ならびにこれらに関する工事・保守・リサイクル・リユース
取 扱 商 品	電子情報機器（パソコン、周辺機器、サプライ用品他） 情報通信機器（防災無線システム、無線機、交換機他） 応用機器（ダム管理システム他）、各種アプリケーションソフト

2. 沿革

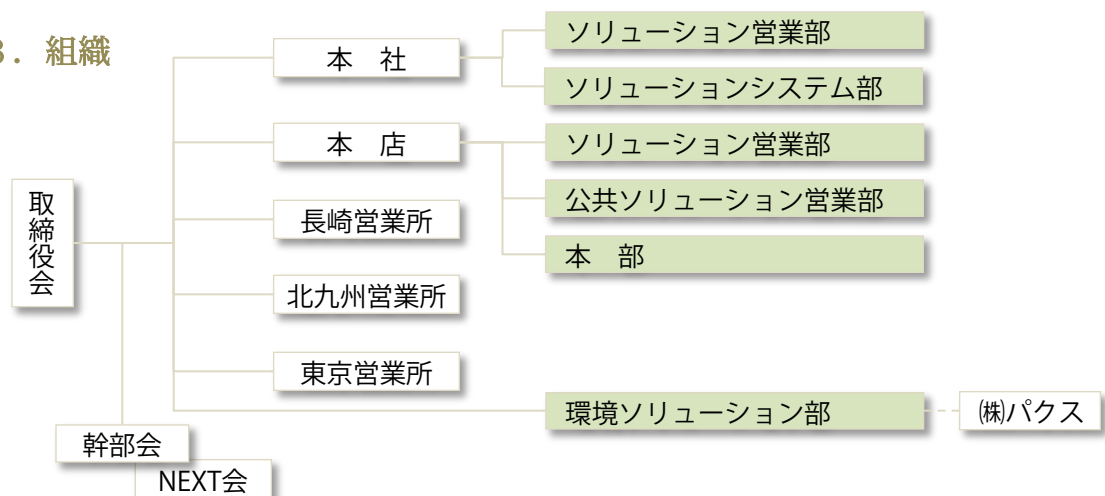
1963年 4月	佐世保市松浦町77番地に会社設立
1965年 10月	福岡市に福岡営業所を開設
1980年 10月	佐世保市万徳町に本店ビル落成
1982年 5月	長崎市に長崎営業所を開設
1997年 7月	鳥栖市にリサイクルセンターを開設
1999年 3月	ISO14001認証取得
2003年 2月	A S P事業開始
2004年 6月	ISO9001認証取得（公共ソリューション部門）
2005年 8月	リサイクルセンターでバイオマス発電による電力導入
2006年 5月	リユース部門を独立させて（株）パクスを設立
2007年 1月	本社を佐世保から福岡に移転
2007年 1月	ISO27001認証取得
2007年 10月	企業格付“aa”取得（米国S&P社）
2009年 5月	本社を東比恵ビジネスセンターへ移転
2009年 11月	東京都新宿区四谷に東京事務所を開設



福岡本社（東比恵ビジネスセンター9F）



3. 組織





当社は1963年に神戸工業（現；富士通テン）の特約店として、無線機のメンテナンスと販売を目的とし、佐世保で設立しました。その後、神戸工業が富士通と合併したために、富士通製のコンピューターやパソコンを販売することになり、今では福岡を本社に、佐世保、長崎、北九州、鳥栖と九州北部に商圈を広げて、皆様のソリューションのお手伝いをさせて頂いております。その間、経営の効率化を図るために、保守部門を九州テン（580名）へ、大型システム部門を富士通九州システムズ（現在富士通100%出資子会社で約1,600名）へと会社を分離し、連携しながら、富士通の九州地区のトップディーラとして、今日まで成長して参りました。

今ではお客様も製造業、流通業、運輸業、金融業、サービス業など多方面に広がり、地域で求められるコンテンツやサービスを提供しております。お客様からのご要望に的確にタイムリーにお応えすることのみならず、IT系の企業は割り切った付き合いをするという風潮に反して、地域で顔が見えるソリューション会社として、それぞれの立場の方々と情のこもったお付き合いをさせて頂き、信頼を獲得することで、未永く付き合って行けることをモットーとしております。

また『人とみどりとソリューション』のテーマのもとに、97年に九州で初となるパソコンなどの情報機器専門のリサイクルセンターを鳥栖に開設しました。06年には使用済みパソコンのリユース会社の(株)パクス（17名）を設置し、情報機器の販売からその処分、分別、再利用まで、「循環型ソリューションプロバイダー」としての役割りを充実させ、パソコンの生涯をお任せいただけるまでに活動範囲を広げております。今後もこうしたITソリューションと環境貢献をテーマに事業を推進して参ります。

販売・開発・保守

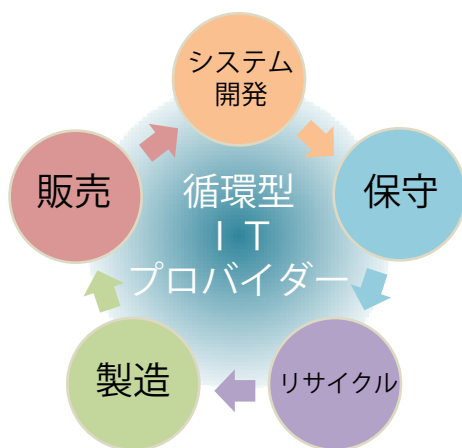


地域に密着したソリューション企業として地場では最大とも言えるフィールド・システムエンジニア集団を擁し、お客様のアプリケーションの適用／開発のニーズにお応えしています。また地場特有のスピード感あるサポートによる営業から開発、保守、処分まで一貫体制を整えています。

ホームページ作成ビジネス



企業向けのホームページ作成、運営支援サービスです。HP作成、公開用ドメインやサーバー管理、集客対策は勿論、アクセス解析とHP診断を基に、HPを活用した売上UP、問合せ件数増加のための施策までご提案します。またHPと基幹システムを統合した一括ソリューションもご提供します。



リユースビジネス



一度は役割を終えた電子製品を再利用させ、リユース市場の更なる発展を担うため、(株)パクスを設立しました。パソコン等、廃却されるお客様のデータ漏洩防止等を講じ、セキュリティと品質を高めて再販売することで環境に優しいリユースを促進します。

リサイクルビジネス



お客様が長年ご使用になられたパソコン等の情報機器類を責任を持って処理するリサイクル体制を整えています。リサイクルセンター内で利用する電気は、バイオマス電力を利用しています。



当社の経営コンセプトである「人とみどりとソリューション」の“人”の部分に相当しますが、大切な社員の満足度を向上させて、強い会社を作ろうという活動です。IT業界は技術革新や市場の流れが激しく、変革を続けないと企業の存続も難しくなってきます。特に、敏感な感受性を持つ若手社員の新鮮な意見が経営に大きな影響を与えることも少なくありません。当社ではフラットな組織づくりを行い、若手参加型の経営を推進し、そこで人材育成を徹底し、働きやすくハイパフォーマンスを発揮できる環境作りを促進しています。

1. 人材の育成

次世代リーダー合宿

毎年1月土日、若手社員を中心にグループディスカッションを実施しています。幹部からのメッセージを通じて、若手社員へ次世代リーダーとなるべき姿勢や心構えを説き、自覚を促しています。仕事や会社に対する熱意や会社への帰属意識・仲間意識の醸成、モチベーションの向上にも効果があり、当社の伝統行事として定着しています。



リーダー合宿の様子

志然改

異なる部門の若手社員と幹部が自由に意見交換を行って、オープンな改革の土壌を作ることを目指します。スタートして6年目になりましたが、社員数が200人ともなると、話したこともない幹部が多くなります。そこで、年一回、若手社員が話してみたい幹部を指名して、5名程度で会食しながら懇親会を行なっています。当社の伝統と文化の共有、制度やルール策定のプロセスの継承に幹部がメッセージとして他部門メンバーの育成にも関わっています。

社会人大学

技術修得のみならず、社会経済や専門知識を、様々な手法や分析習得、大手企業のマーケティングやマネジメントや販売プロモーション戦略などの最新事例を学ぶ社会人大学に、毎年社員を輩出しています。4月から毎月2～3日の講義にのぞみ、12月には卒業レポートを提出せねばならず、スケジュール調整に苦労しているようですが、次世代リーダーの登竜門として取り組んでいます。既に当社からは87名の卒業生が、現場でリーダーシップを発揮しています。

G E T 研修

テーマや訪問地を自分で設定し、一人で海外を歩んで国際感覚を養う研修です。関係会社（ポーランド）を表敬訪問し、アウシュビッツ強制収容所跡で歴史的事実に触れ、あとは自己のテーマに則って行動します。語学力だけでなく計画力、判断力そして行動力が必要で、新しい体験により達成感や視野の広がりが期待できます。



スイスのマッターホルンにて

英会話

当社の本店がある佐世保市は、アメリカ海軍の基地の街として栄えてきました。この地域特性を活かして、毎週月曜の夜、米軍将校の奥様を講師としてお招きし、英会話教室を開催しています。地域の方々にもスクールを開放し、日本語がほとんど分からない講師にご指導いただいています。ハロウィンやクリスマスのパーティーなど、会話だけではなく、アメリカ文化も学んでいます。

2. 信頼と安心への取組み

企業格付『a a』

経営の安定度や実力を計るために、米国の格付会社であるスタンダード・プアーズ社が発行する日本SME格付け『a a』を取得しました。上場企業とは異なり、経営に自信のある中堅企業が格付け審査の依頼を行い、実力を把握するもので、客観的評価により採用活動や経営安定での他社との差別化、銀行などの信用性向上を目的としています。

フロントソリューション・コンペ



低迷する経済環境の中で、企業のコスト削減に対する取組みも進み、今後は売上維持・向上への施策が求められています。そこで、お客様の売上に貢献できる「フロント」業務に着目し、全社員からの提案をコンペ方式で募っています。自ら考え出したシステムや仕組みを提案し、このコンペで入賞すれば、開発・実用化へと発展します。



コンペ表彰式

B R 運動『信頼の絆』



企業にとって、お客様との信頼関係は利益以上の財産と考えています。お客様との信頼関係を築くには『約束を守る』ことが必要です。それを一歩前進させて、お客様への中間報告を行う習慣をつけ、メールや電話などの情報技術を活用して、こまめに連絡を行う運動を、当社では推進しています。また、地域密着型の安心をお届けする企業として、お客様との『信頼の絆』を深める運動として6つの柱を掲げ、信頼関係を強固にするためにB R (Bonds of Reliance) 運動として、日々活動を続けています。

3. 社員満足度の追及

社員の親睦融和



社員会の正式名称は「For You Club (朋遊会)」と言います。社員同士および家族の親睦を本旨としかつ、社員の福利厚生の上昇を図ることを主な目的としています。活動内容は、社員旅行の計画・実施、イベント・ボランティア支援、クラブ活動支援、社員への慶弔見舞等があります。

新しい構想として、クラブ活動を積極的に支援していく予定です。若手社員が多いこともあり、スポーツを通じて社員同士の交流を深めるだけでなく、メンタルやフィジカル、健康促進にも貢献していきます。



社内ゴルフコンペ

401K導入

長年勤務した社員の苦勞に應えるために、退職金は必ず支給するという仕掛けを構築しています。バブル後の企業破綻で、大手航空会社でも、世間では退職金が支給されなかったというケースが相次いでいますが、そうした悲しみや迷惑を、社員には絶対にかけないという信念に基づいたものです。毎年積み立てられる退職金を本人に通知し、確定拠出型年金401Kの早期導入や社外での退職引当金の運用(万が一でも本人に支給される)を行なっています。



当社の経営コンセプトはC S R活動を視野に入れて「人 と みどり と ソリューション」を設定しました。コンセプトの“人”ではお客様や社員などのステークホルダーの満足を追及し、“みどり”では環境というテーマを柱に社会貢献し、同時にコンプライアンス、セキュリティ、品質管理などにも取り組みます。“ソリューション”では本来の業務で成長路線を歩み、安定した経営を実践し、着実に利益を出すことを目指します。本質的な姿勢としては社会的責任を果たすのではなく、社会的信頼を得ることを目的に活動を推進しています。

1. 安全と健康

厚生労働省の労働安全衛生法に定められた「職場における労働者の安全と健康を確保するとともに、快適な職場環境の形成を促進すること」を目的に活動しています。特に、近年はホワイトカラーの心身症などの増加に伴う対策などが急務の課題になっています。

安全衛生職場巡回

快適な職場環境の維持・増進のため半期毎に職場巡回を実施しています。職場の安全衛生をチェックし問題があれば各サイトの委員に改善勧告を行います。09年度は7月と12月に本社・本店・リサイクルセンター・パクスにて実施し、主な実績は本店の防火設備を一新したことが挙げられます。10年度も同様に職場巡回を実施し、より安全かつ快適で生産性が向上する職場環境作りを目指し、点検項目をさらに充実させて取り組みます。

産業医契約

09年度に内科胃腸科を専門とする医師を産業医として迎え、健康診断結果から生活習慣改善についてのご意見やインフルエンザ予防接種などご協力をいただいております。10年度は35歳未満の健康診断もお願いし、医師のアドバイスを基にさらに社員のケアに努めます。

過重労働防止・長時間勤務者フォロー

残業が2ヶ月連続60H以上の社員を対象に毎月疲労度チェックを行ない、体調に異変がある場合は医師の面接を受けるよう推奨しています。また管理職に対しては該当者に関する報告書の提出を義務付け、休暇の取得や作業軽減など配慮するように指導しています。

療養者支援

疾病での療養者が安心して療養できるように、疾病手当金の申請手続きなど、今後も支援の幅を広げていきます。また、療養期間が長期となった療養者が職場復帰するために、準備期間の設定と計画を行い、スムーズに復帰できるよう継続支援をしています。



後列：松本 田添 福島 渡邊 池内
前列：的場 永田（委員長） 大田

2. 改善活動

社内において生産性を向上させるために、社員全員でカイゼン活動に取り組んでいます。主体はCOM委員会で、2006年に発足しました。COMとはCustomize Our Mindの略で「まずは私達の意識からカスタマイズします」という意味です。COMの基本キーワードとして「問題点の見える化」「対策の標準化」「整理整頓」を掲げて活動をスタートさせています。カイゼンをより身近なものとするため、09年度より簡単に申告ができるCOMシステムを稼働開始しました。また10年度からはカイゼンの目的に「環境貢献」も新たに加えるなど、カイゼンの幅を広げ各パート社員を含む全社員でより良い環境作りに取り組んでいます。日々の業務において現状に満足せず、常に「なぜ？」を繰り返すことにより、社員のカイゼン意識を向上させ、強い会社組織作りを目指します。

活動実績

申告数：384件
実施数：196件（うち評価対象：127件）

活動目標

従来の評価対象より、新たに以下の内容も評価対象とし範囲を拡大する事で、カイゼンに対する意識のさらなる向上を目指します。

《評価拡大範囲》

- フロントソリューション提案
 - ・新しい技術・アイデアによるソリューション提案
 - ・顧客の売上向上提案
- 常駐先での職場改善
 - ・常駐先殿の品質・生産性向上
 - ・関係強化と企業イメージUP
- 環境貢献に対する活動
 - ・各自が暮らす地域社会での環境貢献活動

《今年度目標》

- ・申告数：500件（前年比3割増）



社内COMシステム



～ Customize Our Mind ～



本村 西下 藤村（委員長） 大野 谷本

3. 安心

IT業界の特性として、お客様の重要な記憶情報を取り扱う機会が増えてきています。世の中で情報漏えいという事件が表面化し始めた04年半ばからルールを設けて、全社的な運動として取り組み始めました。その後、世間のIT産業における情報管理の要求の高まり、増加、拡大するセキュリティ事故への対策としての活動へ発展していきました。その結果、07年1月にISO27001を取得し、以降も維持、発展へむけての活動を継続しています。

情報セキュリティ方針

当社は『人とみどりとソリューション』を経営コンセプトにITソリューション会社として情報・通信機器の販売からシステム開発、保守、使用済み機器の引取り、廃棄（循環型ITプロバイダー）までのサービスを提供しております。

今日において、情報は大切な資源であり、機密性、完全性及び可用性を確保しサービス全般を円滑に実施していくことが重要になっております。

当社は情報資産を故意、過失、事故及び災害の脅威から保護し、事業活動を継続的かつ安定的に確保するために、定期的なリスクマネジメントによる情報セキュリティ対策を推進し、適切なセキュリティ水準を維持していきます。

情報セキュリティの重要性を認知し、すべての関係者に啓発を行い『情報セキュリティ方針』や関連する法令を遵守することによりサービスの向上を図ります。

本社オフィス移転に伴うセキュリティ向上

09年5月の本社移転によりセキュリティ対策強化を行いました。創業以来の伝統である「見晴らしのいい（パーティションのない）オフィス」と「情報資産保護オフィス」との間で試行錯誤でしたが、情報に携わる企業として必要な環境が整いました。

《主な強化点》

- ・セキュリティ強化のサーバ室、開発ルームの設置
- ・電子鍵による入室管理の採用
- ・デスクのフリーアドレス制によるクリアデスクの徹底

1. 送信時 ファイルに忘れずパスワード
2. セキュリティ 毎日更新 週一スキャン
3. 事件事故 気づいた時は 即報告
4. 情報の 持ち出し持ち込み 要承認
5. パスワード 定期更新 自己防衛
6. 社外では 肌身離さず わき目もふらず
7. 帰宅時は クリアデスクで ノーリスク

セキュリティ7つのテーマ

日常作業においての重点活動を7つのテーマとして全社員へ配布しました。各事業所毎に唱和をとおして浸透・活動徹底を行っています。

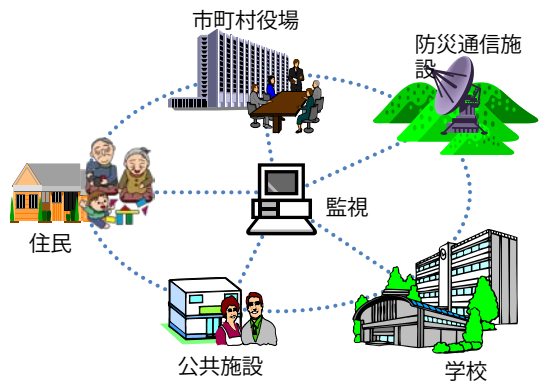


後列： 佐藤 松野（委員長） 松本 坂本
前列： 赤司 熊谷 守 久野

4. 品質管理

当社公共ソリューション営業部は主に自治体様に対し防災行政無線や河川情報システムなどの地域住民のみなさまの人命・財産を守る、公共性の高いソリューションをご提供しています。

お客様のニーズである「安全」「安心」「正確」を高い品質でご提供するために、品質管理委員会を設立し、国際品質規格であるISO9001の認証を04年に取得致しました。また08年には、新規格である「ISO9001:2008」の認証も取得しております。品質方針に基づき、高い品質の工事、保守サービスをご提供する事で、今後も社会貢献を行って参ります。



品質方針

- ・顧客のニーズと期待に応えた工事および保守サービスの提供を行い顧客満足の向上を図ります。
- ・要求事項への適合性およびマネジメントシステムの有効性について継続的改善を図ります。

品質目標

- ・Echo119（お客様サポート支援システム）の浸透を行います。
- ・お客様宿題事項の対応期限報告および予定変更報告を徹底します。

作業風景



安全活動



施工



完成



竣工検査



当社の環境活動は経営コンセプトである『人とみどりとソリューション』に基づき、98年に取得したISO 14001の環境マネジメントシステムを中心とした全社的な幅広い環境活動を意味します。またその環境活動全体を社内では「みどり活動」と呼んでいます。

具体的には、事業に携わるグリーンIT商品の開発・販売、CO2削減効果のあるシステム導入、リサイクル・リユースや日々の省エネ活動（紙・電気の使用量削減、ごみの分別）以外に、地域に密着したボランティア活動やイベントへの参加、環境教育・啓蒙活動、対外的なアピール活動を行い、1年に一度みどり活動の成果を環境会計という形で公開しております。

みどりの委員会



Green Committee



みどり活動は各事業所で選抜されたみどりの委員会を中心に活動しています。月1回実績のレビューを行い、目標未達成の場合は即座に原因の分析を行い、対策を実施します。また、外部講師による勉強会や新たな環境活動についてアイデアを出しあったり活発な意見交換をしています。森林ボランティアとしてのイベント等は、ご家族も一緒に全社員が気軽に参加できるように企画・運営しています。若いメンバーで構成していますが、各サイトの代表として参加しており、それぞれの職場に戻れば環境活動の推進責任者として重要な役割を担っています。



定例会の様子

委員長メッセージ

10年度のキーワードは、『環境ソリューション』と『お客様参加型』です。世の中には環境に関する情報やサービスが山ほどあります。その中で「エコ電子は何ができるのか？」という問いに答えられる環境ソリューション作りに取り組みます。また、お客様へ還元できるみどり活動を目指し、お客様にとって、エコ電子と付き合う＝環境活動への参加という方程式を築きます。

右田（委員長）

責任者メッセージ

私の役目は環境マネジメントですが、我が社はどちらかと言えばマニュアルに則った活動というより、環境負荷軽減を模索しながらいろんなことにトライする会社です。これは、我が社のコンセプトである「人とみどりとソリューション」を社員一人ひとりが十分に理解した表れだと思います。これからも推進部隊である「みどりの委員会」と連携をとりながら認証維持を行っていきます。

松元（環境管理責任者）

【活動方針】

《環境ソリューションへの取り組み》

- 環境に関する情報の取りまとめ
- 環境ソリューションマップ作り

《お客様参加型-環境マネジメントシステム》

- お客様へ環境に配慮したサービス・サポート
- グリーンITの提案



後列： 佐藤 白木 右田（委員長） 大家 小林社長
前列： 松元 甲斐 田代 山本



当社の経営コンセプトである『人とみどりとソリューション』に基づいて、98年10月に環境方針を定めました。この方針に沿って環境保全型企業として活動します。

エコ電子工業・パクスは、お客様にとって身近な地域ソリューション会社という立場で情報通信機器分野を中心とした環境保全活動に取り組み、社会の発展と地球環境の調和に貢献していきますそのために環境マネジメントシステムの定期的な見直しを行い、継続的な改善と汚染予防に努めます

会社の使命として、お客様へ環境に配慮したサービス・サポートを提供するとともに、業務の効率化、事務の合理化、リサイクルの推進などにより省資源・省エネルギーを目指します

環境関連の法律や各種規制および、その他の要求事項を守り、環境保全活動に努めるとともに行政機関や地域環境団体の環境活動に対しても積極的に協力します

教育・啓発により、社員一人ひとりが自ら社会に貢献できるように環境意識を高めます

環境方針や活動状況を公開します

環境マネジメントシステム

Environmental Management



国際規格（ISO14001）に基づき、当社に適応した環境マニュアルや具体的な手順書を作成し、『みどりの委員会』を中核とした環境マネジメントシステムを構築しました。

環境方針

- ・紙、電気の使用量削減
- ・省エネ商品の販売
- ・省エネ啓蒙商品の開発
- ・森林保護活動を通じた社会貢献

計画

- ・紙使用量の削減
- ・電気使用量の削減
- ・中古パソコン販売台数の累計
- ・資源リサイクル量の累計
- ・グリーンIT販売台数の累計
- ・システム導入によるCO2削減



継続的な改善

みどりの委員会

経営層による見直し



点検および是正措置

- ・毎月のチェックと対策
- ・内部監査および指導
- ・全体会議での実績報告（年2回）
- ・環境報告書作成（6月）

実施および運用

- ・日々の省エネ活動
- ・ボランティア活動参加
- ・社員教育、グリーン商品の開発
- ・システム導入による効果測定
- ・リサイクル/リユースの推進





98年に定めた環境方針をもとに当社における企業活動の中でもっとも影響が大きい環境側面（裏紙の使用量、電気の使用量、資源リサイクル量、パックスの中古パソコン販売台数）を洗い出し、具体的な目標を設定しています。また、目標に対して環境マネジメントシステムが有効に作用しているかどうかの見直しも定期的に行っています。

1. 裏紙の使用を促進する（実績 152,284枚）

《具体策》

- ・裏紙プリンタ設置
- ・裏紙利用推進通知、
- ・裏紙1cm運動（カラー印字可）

《考察》

09年度は新たな活動として裏紙使用の促進に取り組みました。各サイト毎に利用目標枚数を設定した上で、裏紙利用の推進を行いました。毎月の利用量をプリンタ毎に集計することで利用傾向を掴み、裏紙利用の促進を行いました。全社では目標を達成しましたが、利用が多いと見込まれた本社では目標未達成でした。裏紙に利用する用紙が少ない傾向にあった事も要因のひとつと考えられます。10年度は裏紙使用の促進に加えて、白紙の利用を削減する目標に取り組めます。



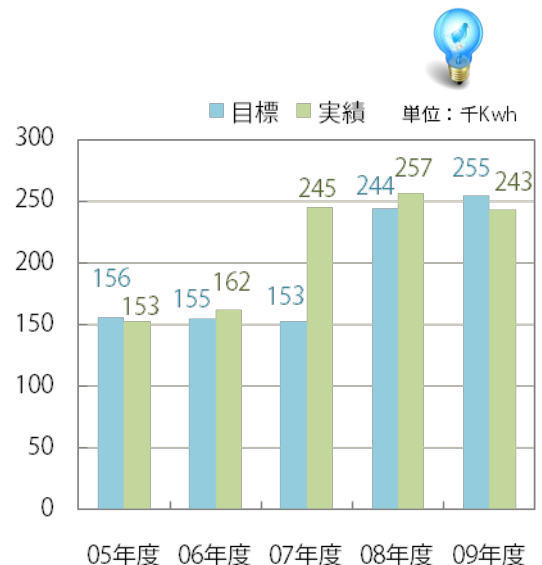
2. 電気の使用量削減（実績▲5.5%）

《具体策》

- ・不要照明具の消灯
- ・機器の電源オフ
- ・エアコンの温度設定厳守
- ・ダクト調整による空調利用制限
- ・クールビズ・ウォームビズの実施
- ・サーキュレーター（空気循環機）の導入による空調効果改善
- ・サーバ電源制御ツールの開発・運用

《考察》

09年度は目標に対し5.5%の削減となりました。本社移転に伴い、省エネ蛍光灯を採用した照明器具の利用、また、サーバ室内のサーバ機器をブレードサーバ化する事で、電気利用量の削減に取り組みました。その他昼休みの消灯励行や、終業時間に一旦照明を落とし、必要な箇所のみ再点灯するなど細かな使用量削減対策を行っています。10年度も継続して取り組んで参ります。



3. 資源リサイクル量

《説 明》

リサイクルセンターではお客様より廃棄される廃情報通信機器類を、当社のリサイクル処理により、解体・分別を行っています。分別された素材は、原材料として業者に委託、または再生燃料として処分業者に引き渡し資源の有効利用に取り組んでいます。再資源として出荷した素材量を「資源リサイクル量」として集計しています。

《具体策》

鉄、アルミニウム、プラスチック、金、銀の出荷量

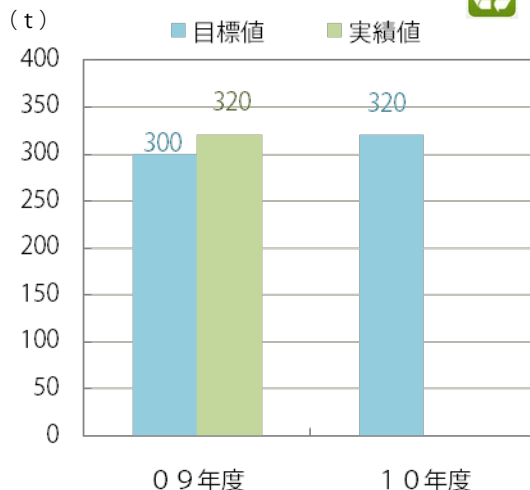
《実 績》

320.093 t

《考 察》

本プログラムは09年度からの取り組みです。09年度に掲げた目標300tに対して、実績106%を達成しています。今後も、徹底した手作業による解体を実施し、丁寧な分別をすることで、資源の有効利用促進に努めていきます。また、リサイクル処理業務の効率化を図り、再資源量の拡大に取り組めます。

資源リサイクル量



4. パक्सの中古パソコン販売台数

《説 明》

中古パソコンを購入することによって、新しいパソコンの販売減少になりますが、見方を変えると新たにパソコンを作らずに済み、製造にかかる資源を使わずに済む事になります。つまり、中古パソコンの販売台数を増加させる事が環境負荷軽減になると考え、再生・再利用の促進に取り組んでいます。

《目 標》

38,000 台

《具体策》

- ・ネットオークションへの出品
- ・自社ホームページ及び中古PC販売業者への販売

《実 績》

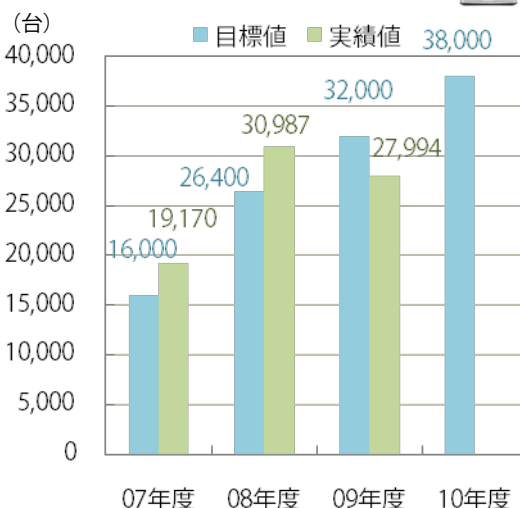
27,994台 (約2,300台/月)

CO2削減効果: 2,960t (富士通の換算式を参考にしてます)

《考 察》

09年度は前年比で伸長率は90%でした。内訳はデスクトップパソコンが10,085台、ノートパソコンが17,909台となり、ノートパソコンが約6割を占めています。パソコンの販売はネット販売と業者販売が中心ですが、業者販売が8割を占めています。今後は品揃えとホームページを充実させ、ネット販売での売上拡大を目指します。

販売台数



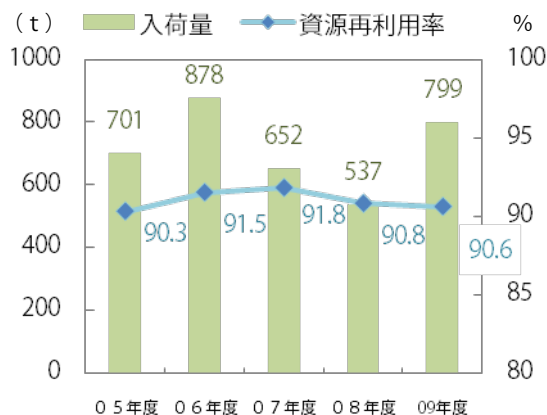


ITサービス形態の中の機器の販売・メンテナンスからリサイクルまで、限られた資源の有効利用と資源循環を基調とする経済システムの実現を目指しています。当社は、「富士通九州リサイクルセンター」にてリサイクル処理を担当しています。富士通が掲げるリサイクル規約「FRS」を遵守し、安心と安全をご提供すると共に、資源の再利用率向上を目指し環境貢献に努めています。入庫から解体・分別・産廃まで一貫して管理できるシステムを導入して、作業実績を把握できます。

1. 入庫量と資源再利用率

右図はパソコンの入庫量と資源再利用率を示したものです。入庫量は情報通信機器類の軽量化の影響で、減少傾向にあります。また近年は、再使用（リユース）のニーズも高まり、中古市場が活性化しているため、リサイクルの周期が長期化する傾向にあります。そのため、07年度以降の入荷量は減少しています。そこで、09年度は、お客様へのアプローチ強化、リユース部門であるパクスとの連携を強化した結果、入荷量が増加しました。今後も継続した環境負荷を低減させる活動を各企業に認識していただき、新たに継続受託できる企業の取り込みを実施します。

資源再利用率はバッテリーやプリント基板抽出等再利用率が低いものを抽出したため低下しました。今後分解・分別技術の向上より、究極的なゼロエミッションに近づける努力をします。

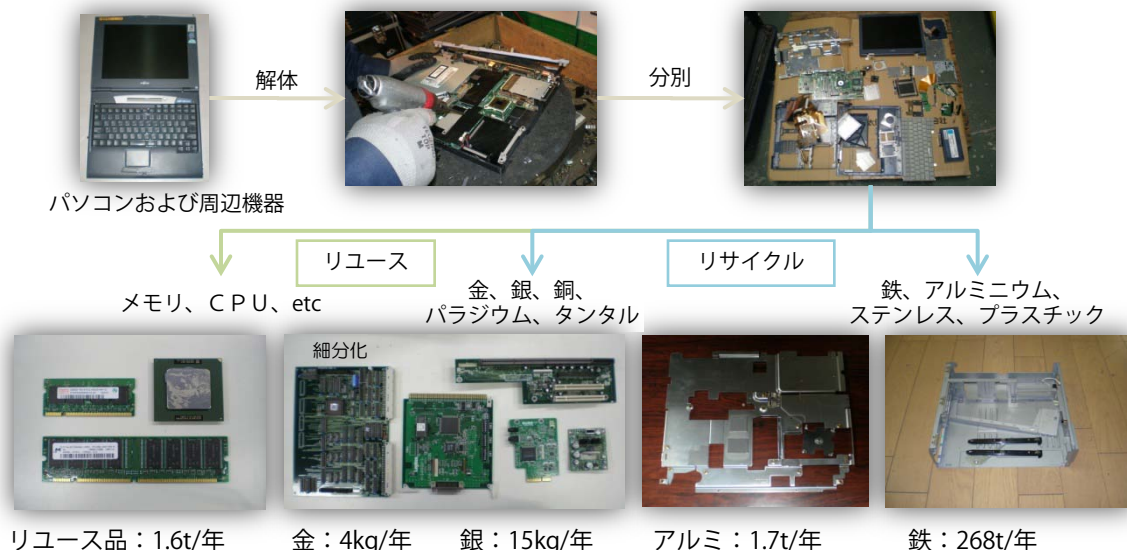


※富士通が公表しているIT関連機器の数値です。今後も資源再利用率90%の維持を目標にしていますが、富士通のリサイクル部門の一員として協力していきます。

※FRS：富士通りサイクルシステムの略

2. 資源再利用

回収した機器を手分解、素材ごとに分別することにより再資源化し、資源の再利用を推進しています。素材の中には鉄、銅、アルミニウム等の金属も多く、その他に金、銀といった貴金属もあります。特に貴金属は鉱山から採取するよりはるかに効率の良いものと注目されています。更に富士通主導のもと、「レアメタル」の抽出にも取り組みます。



私たちの生活に還元

3. 中古パソコンの回収から商品化までの流れ

パクスでは使用済みとなったパソコンを回収し、中古パソコンとして再利用して頂くために高品質の商品づくりに取り組んでいます。こうしたリユース事業を通して、環境貢献の一役を担っています。主な作業の流れは、使用済みパソコンの購入を行い、自社便で回収します。その後工場では、検品／仕分け、データ消去、ネット出品、出荷を流れ作業で行います。工場内は、部外者侵入防止として、監視カメラの設置、夜間は機械警備を行っており、セキュリティ対策には万全を期しております。ソフト面では、販売履歴の管理やハードディスクのデータ消去、そして動作テストを同時に行なうソフトを導入し、品質の良い中古パソコンを生産しております。



① 自社トラックにて使用済みパソコンの回収を行います。



② 工場に持ち込み検品を行います。



③ パソコンのシリアル番号を登録、バーコードを発行し、販売履歴の管理を行います。



⑥ 外観をはじめキーボードまで丁寧に清掃総仕上げを行います。



⑤ 約20項目の動作テストを実施します。



④ 品質の高いデータ消去ソフトでデータを完全消去します。



⑦ 自社HPにて販売しています。 <http://www.e-pax.jp/>

以上の作業工程を経て品質の高い中古パソコンを生産しています。販売はネット販売と業者販売の二つの販売方法があります。特に、ネット販売についてはたくさんのお客様の目に触れて頂くために、露出度のアップと商品の充実化に努力しております。



社員一人ひとりが環境意識を高めて、環境活動のレベルアップを図れるように、全社員を対象にさまざまな環境教育と啓蒙活動を定期的実施しています。

1. 三郡山トレッキング(福岡県飯塚市)

社員への環境教育の一環として、毎年新入社員を対象としたトレッキング研修を実施しています。昨年は残念ながらお天気には恵まれませんでした。新入・中途社員13名、引率社員3名、計15名で福岡県飯塚市三郡山トレッキングコース(標高約935m 全長約10km)を汗だくで縦走し、大自然に直接触れあい、環境保全の大切さを学んで帰ってきました。



山頂での記念写真

2. 社内向け環境活動報告会

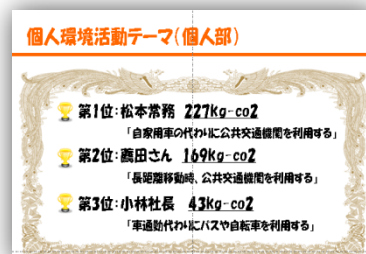
環境活動で掲げている数値目標に対しての成果は、各事業所毎にデータを示して報告しています。在籍数の増減で左右される場合が多いのですが、新しいアイデアを出し合って、継続的に努力しています。また、個人活動テーマによる社員表彰制度もあり、会社目標と個人目標の相乗効果によるCO2低減を推進しています。



全体会議での報告の様子

3. 個人環境活動テーマによる意識向上

04年度から企業としての活動に加え、個人毎で取り組む個人環境活動テーマも継続しています。毎年優秀社員には全体会議にて「みどり賞」の表彰を行っています。09年度から全社員に携帯箸を配布し「携帯箸の利用回数」の計測、また10年度は社用車を使わず、「公共交通機関の利用距離」の測定を全社員の共通テーマとして取り組んでいます。



個人賞BEST3

4. 当社が提供できる環境ソリューション

当社内のみどり活動にとどめるのではなく、知り得た環境に関する情報やサービスを社外・お客様へ還元していきます。環境イベントへ積極的に参加し、情報収集を行いお客様に役立つフロントソリューションとして提案していきます。



フロントソリューション発表会



当社では環境教育および社会貢献活動の一環として、地域に密着したボランティア活動やイベントなどへ積極的に参加し、企業の社会に対する責任を果たしていきます。

当社は、森林造成整備、海岸清掃および植樹などの環境保全活動を、定期的かつ継続的に実施し、社員一人ひとりの環境意識を高め、社会貢献に寄与しています。

1. 枝打ち・間伐

新たな試みとして、森林ボランティアのイベント参加ではなく自分たちで枝打ちを企画しました。みどりの委員会が中心となり、場所の選定（今回はお客様私有地）から当日の枝打ちまで全て自分たちで行いました。今後取り組んでいく「エコー100年の森作り」の足掛かりになりました。

09年10月10日 福岡市早良区 曲渕ダム 参加8名
09年10月24日 福岡県田川郡添田町 英彦山周辺 参加4名
09年11月28日 長崎県波佐見町 お客様所有地 参加69名



枝打ちの後の記念撮影

2. 河川・海岸清掃

毎年参加している福岡の海岸清掃に加え、関東地区に常駐している社員自ら参加を企画し、有志15名とご家族が東京都江戸川区の荒川沿いの土手の清掃イベント「江戸川エコウォーク」に参加しました。

09年 6月 7日 東京都江戸川区 荒川沿い 参加15名
09年10月24日 福岡県福津市 福岡海水浴場 参加10名



荒川沿い清掃の後に

3. 植樹・下草刈り

当社の拠点がある九州北部を中心とした植樹ボランティアに参加しています。植樹は、森林を蘇らせ、温室効果ガスの吸引源とするだけでなく、河川や海への水質汚染を防止するために必要な活動です。

09年 6月14日 長崎県佐世保市 烏帽子岳 参加2名
09年 8月 8日 長崎県佐世保市 佐世保中央IC 参加9名
09年11月 8日 長崎県長崎市 長崎県民の森 参加3名



斜面に桜を植樹



当社では環境保全に関わる費用と効果を定量的に把握し、環境投資と効果を評価する『環境会計』を導入しています。費用と効果を比較しやすくする為に、出来る限り貨幣換算しました。また効果については、間接効果（当社の環境活動による社会への貢献を貨幣換算したもの）も考慮し算出しています。

1. 費用 *1

事務所 (単位：千円)			リサイクルセンター・パクス (単位：千円)		
環境保全費用の分類	主な取り組み	投資額・費用額	環境保全費用の分類	主な取り組み	投資額・費用額
①営業・サービス活動により事業エリア内で生じる環境負荷を抑制するための環境保全費用（事業所エリア内費用）	- 省エネ等の環境対策関連設備投資・償却費 - 環境保全維持管理費	5, 513	①営業・サービス活動により事業エリア内で生じる環境負荷を抑制するための環境保全費用（事業所エリア内費用）	廃棄物のリサイクル、減量化の為に設備投資維持管理費用（設備費）	14, 444
②管理活動における環境保全費用（管理活動費用）	- 環境負荷の監視・測定 - 環境マネジメントシステム構築、運用、認証取得 - 環境教育	7, 093		廃棄物のリサイクル、減量化の為に設備投資維持管理費用（人件費）	101, 648
③社会活動における環境保全費用（社会活動費用）	- 森林保護活動 - 環境情報の公表及び環境報告 - 環境保全を行う団体への寄付、支援効果の内容 - バイオマス電力購入	1, 697		廃棄物のリサイクル、減量化の為に設備投資維持管理費用（その他 維持費）	33, 333
合 計		14, 303	合 計		149, 425

2. 効果 *2

事務所 (単位：千円)				リサイクルセンター・パクス (単位：千円)			
効果の分類	効果の内容	主な取り組み	効果額	効果の分類	効果の内容	主な取り組み	効果額
①事業エリア内で生じる環境保全効果（事業所エリア内効果） *3	・地球環境の保全	- 紙の使用量削減 - 電気の使用量削減 - 業務車両の燃費向上 - グリーン商品の販売 - 個人活動テーマの実践 *4	510	①事業エリア内で生じる環境保全効果（事業所エリア内効果）	・資源循環	廃棄物の分別によるリサイクル率向上（処理受託費）	50, 303
						廃棄物の分別によるリサイクル率向上（素材販売額）	31, 989
②社会活動における環境保全効果（社会活動効果）	- 企業イメージの向上 - 環境保全への啓蒙活動	- 森林保護活動 - 環境情報の公表及び環境広告 - 環境保全を行う団体への寄付、支援 - バイオマス電力利用	14, 939			中古パソコン販売による資源の再利用 *5	269, 628
						パソコン再利用による新規製造エネルギーの抑制	2, 072
合 計			15, 449	合 計			353, 992

3. 収支・CO2低減量

事務所 (単位：千円)		リサイクルセンター (単位：千円)	
収 支	1, 146	収 支	204, 566
収 支 (全 体) (単位：千円)		205, 712	
CO2低減量 *6 (単位：kg)		527, 773	

CO2低減量527,773kgは、約37,700本のスギが1年間に吸収する二酸化炭素量に該当します。またこの二酸化炭素量は、福岡ドーム400杯分の大気中に含まれる二酸化炭素量に相当します。 *7

4. 考察

環境会計で費用とは環境を良くするために費やした経費・投資額のこと、グリーン商品の開発費や環境活動を管理・維持・推進するために要した経費・人件費などを指しています。効果とは、紙や電気を削減したり、ボランティアで間伐・植樹したりといった環境保護活動を通じてCO₂排出の削減につながる行為に関わる費用を指しています。一方、リサイクルセンター・パクスでは業務全般が環境貢献につながることから、効果については一部売上を含む内容となっています。

事務所においては14,303千円の費用に対して15,449千円の効果が得られました。収支は1,146千円の黒字となっています。一方、企業経営のなかで環境貢献の柱となっているリサイクルセンター・パクスにおいては、204,566千円の黒字となりました。これは業務に直結した環境活動が着実に成長していることを示しています。事業所内の削減活動と数字を比較しても影響度は大きく、今後も業務を通じて環境貢献をさらに拡大してまいります。

5. 補足

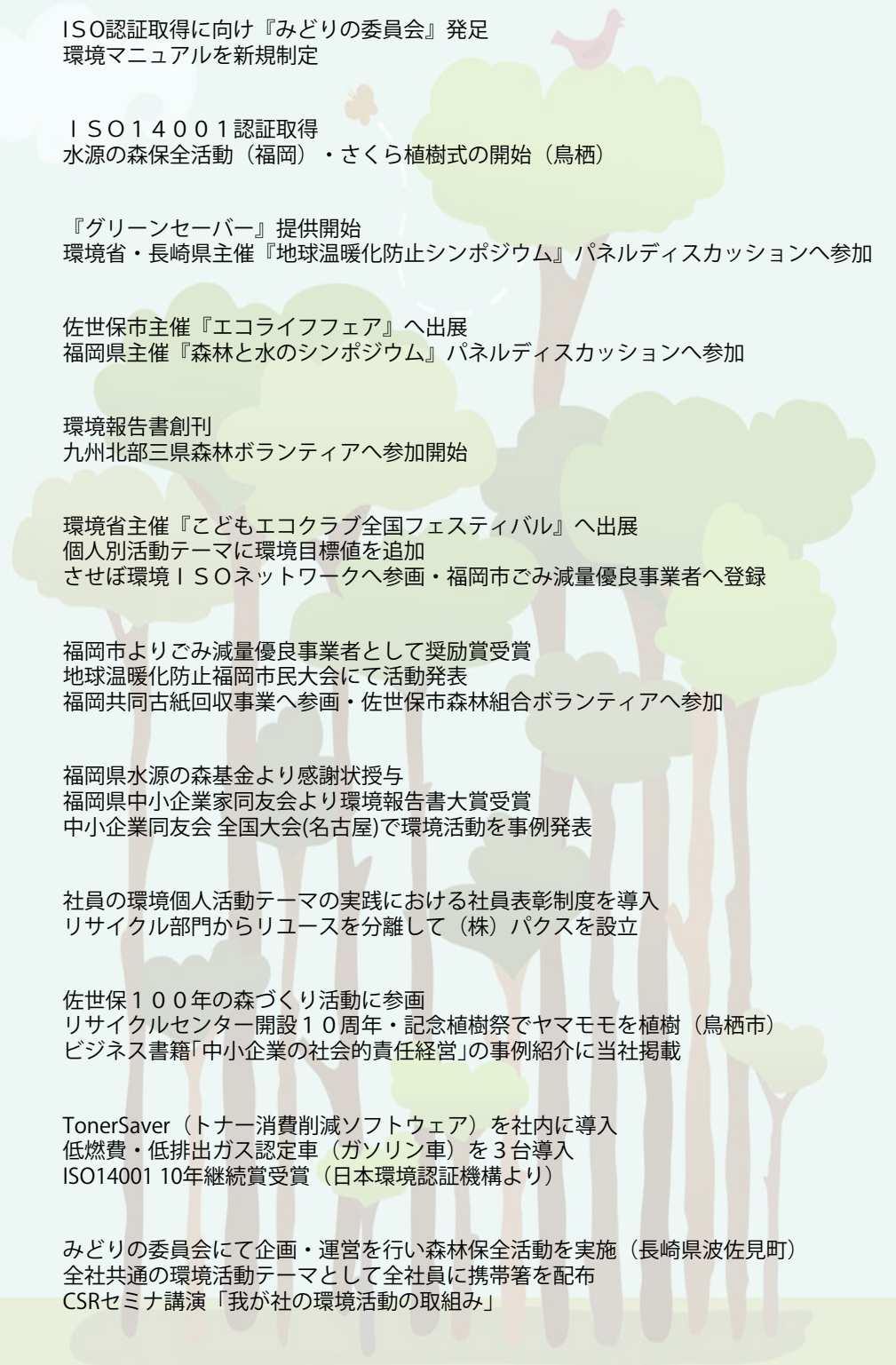
- *1：費用 環境保護のために積極的に投資したもの
実質支出額および人件費（活動時間×人件費単価）にて算出
- *2：効果 ISO管理指数を用いた前年比削減率をもとに回避原価方式によるシミュレーションで算出
- *3：事業所エリア内で生じる環境保全効果
環境活動によって得られた社内効果と、社会に貢献した社外効果を考慮し貨幣換算したものです。例えば、昼休みの消灯による活動によって電氣量が削減され、CO₂排出が削減されるという間接効果が発生すると考え、その電氣量を貨幣換算しています。
- *4：個人活動テーマの実践
04年度より企業としての活動に加え、個人ごとにテーマを設定して社員一人ひとりが環境に対する意識を高めています。これらの活動も集計した結果、1,290kgのCO₂排出削減となり、比率としては微々たるものですが環境会計の効果にも盛り込んでいます。

個人活動テーマ（例）	実績状況	CO ₂ 削減量
通勤時、自家用乗用車の代わりに地下鉄・私鉄・JRを利用する。	4～9月 101回 10～3月 108回	228kg
飲み物は家から持参し、ペットボトル飲料を購入しない。	4～9月 129回 10～3月 117回	9.59kg
買物の際にはエコバックを持参し、レジ袋をもらわない	4～9月 80回 10～3月 67回	14.7kg

- *5：中古パソコン販売による資源の再利用
次の係数に中古パソコンの販売台数を掛けて算出しました。
 - ノートパソコン：87Kg-CO₂/台
 - デスクトップパソコン：139Kg-CO₂/台
- *6：CO₂低減量
当社の環境保全活動によるCO₂低減量を次のシミュレーションで算出しました。
 - CO₂低減量＝効果額（左表2. 効果の合計額）÷CO₂被害コスト
 - ※CO₂被害コスト：CO₂大気汚染物質の排出が1t増えた場合の環境的な被害を推計し貨幣換算したもの（700円/t）
 - 参考資料：『環境省環境会計ガイドライン2005年度版』
<http://www.env.go.jp/policy/kaikai/guide2005.html>
- *7：CO₂吸収量
CO₂吸収量は、林野庁ホームページ記載の係数を元に算出しました。
福岡ドームの容積を176万m³、CO₂濃度は381ppmとして算出しました。
 - ※林野庁：<http://www.rinya.maff.go.jp/kids/study/function/kyuusyu.htm>
 - ※気象庁：<http://www.data.kishou.go.jp/obs-env/ghghp/21co2.htm>

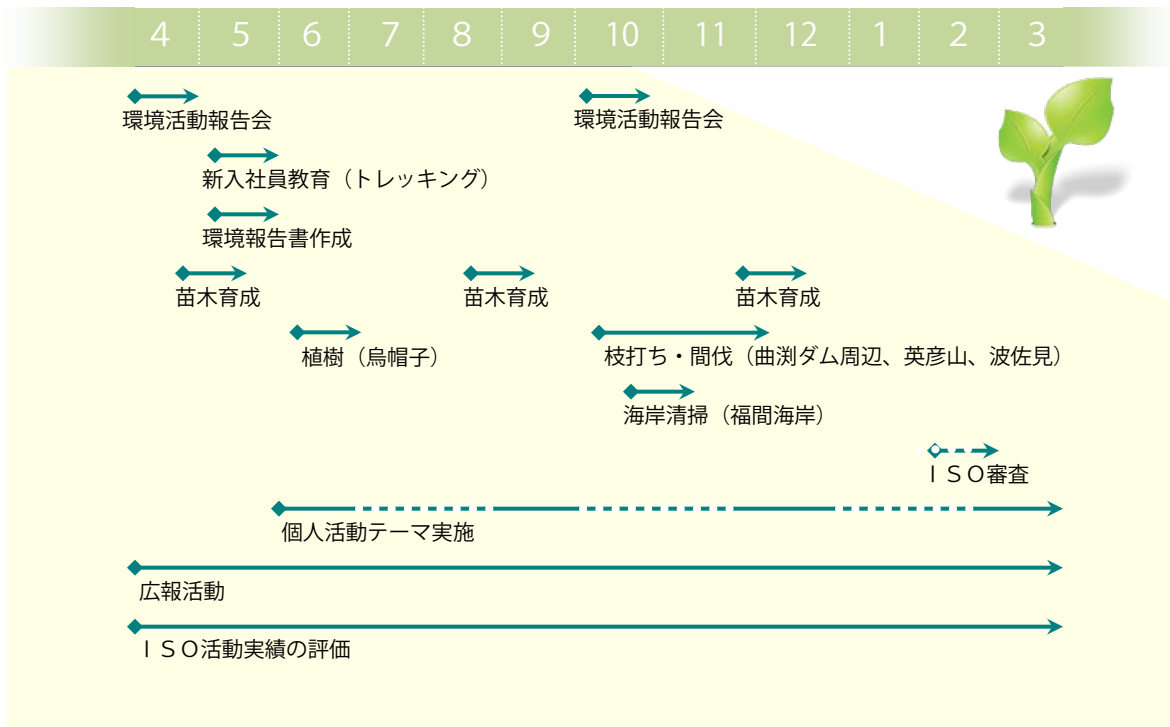


組織的に環境活動へ取り組んできた主な活動内容をご紹介します。

- 
- '97 リサイクルセンター開設（鳥栖市）
- '98 ISO認証取得に向け『みどりの委員会』発足
環境マニュアルを新規制定
- '99 ISO14001 認証取得
水源の森保全活動（福岡）・さくら植樹式の開始（鳥栖）
- '00 『グリーンセーバー』提供開始
環境省・長崎県主催『地球温暖化防止シンポジウム』パネルディスカッションへ参加
- '01 佐世保市主催『エコライフフェア』へ出展
福岡県主催『森林と水のシンポジウム』パネルディスカッションへ参加
- '02 環境報告書創刊
九州北部三県森林ボランティアへ参加開始
- '03 環境省主催『こどもエコクラブ全国フェスティバル』へ出展
個人別活動テーマに環境目標値を追加
させば環境ISOネットワークへ参画・福岡市ごみ減量優良事業者へ登録
- '04 福岡市よりごみ減量優良事業者として奨励賞受賞
地球温暖化防止福岡市民大会にて活動発表
福岡共同古紙回収事業へ参画・佐世保市森林組合ボランティアへ参加
- '05 福岡県水源の森基金より感謝状授与
福岡県中小企業家同友会より環境報告書大賞受賞
中小企業同友会 全国大会(名古屋)で環境活動を事例発表
- '06 社員の環境個人活動テーマの実践における社員表彰制度を導入
リサイクル部門からリユースを分離して（株）パクスを設立
- '07 佐世保100年の森づくり活動に参画
リサイクルセンター開設10周年・記念植樹祭でヤマモモを植樹（鳥栖市）
ビジネス書籍「中小企業の社会的責任経営」の事例紹介に当社掲載
- '08 TonerSaver（トナー消費削減ソフトウェア）を社内に導入
低燃費・低排出ガス認定車（ガソリン車）を3台導入
ISO14001 10年継続賞受賞（日本環境認証機構より）
- '09 みどりの委員会にて企画・運営を行い森林保全活動を実施（長崎県波佐見町）
全社共通の環境活動テーマとして全社員に携帯箸を配布
CSRセミナー講演「我が社の環境活動の取組み」



CO₂排出量削減をさらに推進するために、能動的な苗木育成や森林育成活動に取り組んでいきます。また、引き続き企業目標とは別に、社員一人ひとりの個人活動テーマを設定します。環境ボランティアや環境イベント等への継続参加を行います。



第三者コメント

Comment



第三者という独立したお立場より、本報告書についてご意見をいただきました。当社は、こうした客観的評価を真摯に受けとめ、今後の活動に活かしていきます。



丸喜鋼業株式会社
代表取締役社長 川口 貴弘様

北九州市在住の私にとって環境問題は非常に身近な問題であります。幼い頃、工場の煙突からは七色の煙がでて青い空は灰色になり、海はヘドロで魚も住めなくなりこれから先の未来はどうなるのかと危惧しておりました。しかしながら、工業都市として100年を超える歴史を有し、優れたモノづくり産業の地を保持しながら公害克服など環境問題に持続的に取り組んで、今では環境モデル都市に指定されるまでになりました。

環境問題に取り組む上で大切なことはまず行動することであると考えます。身近なことを一人ひとりができることから始める。最初は、なにも変わらないように見えても螺旋階段をゆっくり登るかのように確実に前にすすんでいます。

この環境報告書にみる貴社の取組みにおきましては、『みどりの委員会』を中核とした環境マネジメントが、継続的な改善を生み出し確実に螺旋階段を登っているのが伺えます。企業は、エコノミー（経済性）を探究する営利集団ではありますが、エコロジー（環境）との両立も求められている現代社会において『Wエコ』を実践しておられる小林社長様並びに従業員の皆様にはこれからも益々の期待をしております。



シンボルキャラクター みどりくん

本 社 〒812-0007 福岡市博多区東比恵3-1-2東比恵ビル 9階
Tel:092-471-0848 Fax:092-471-8621

本 店 〒857-0034 佐世保市万徳町4-18
Tel:0956-23-6221 Fax:0956-25-0784

長崎営業所 〒850-0057 長崎市大黒町4-26北村ビル2階
Tel:095-828-2762 Fax:095-828-2756

北九州営業所 〒802-0003 北九州市小倉北区米町2-2-1新小倉ビル3階
Tel:093-511-8164 Fax:093-551-6067

東京事務所 〒160-0004 東京都新宿区四谷1-10-2-303
Tel:03-6457-8021 Fax:03-6457-8022

リサイクルセンター 〒841-0087 佐賀県鳥栖市河内町転石2834-16
Tel:0942-81-2361 Fax:0942-81-2362

株式会社パクス 〒841-0076 佐賀県鳥栖市平田町3248-1
Tel:0942-81-4656 Fax:0942-84-9270



発 行 元：エコー電子工業株式会社
発行責任者：みどりの委員会
U R L：http://www.g-hopper.ne.jp